

※グループ討議の概要について

この資料は、グループ討議の振り返りのために、暫定的に議論の概要を整理したものです。ファシリテーターが受け取った内容を議論の概要として記述したもので、個別の意見を示したものではありません。修正が必要な点があれば、グループ討議の中で確認して下さい。

沼津高架PIプロジェクト 勉強会（沼津駅周辺地区）第2回

グループ検討の概要【Aグループ】

第1回に続き、地域づくりの目標について話し合い、概ね皆様のご意見として、大きく以下の5点が出されました。

1. 「交通」については、「移動しやすいまち」にすることで、人がまちにでて「賑わい」が生まれ、また、まちに人が「住む」ことで「賑わい」が生まれるのではないかと。
2. 「歩いての移動」については、「移動できる」ことと「ひと休みできる」ことをセットで、「自転車での移動」については、「移動できる」ことと「駐輪できる」ことをセットで目標として掲げておく必要があるのではないかと。
3. 「災害時の避難」については、避難場所が少ない現状から、「地震・津波」については民間施設の活用、「火災」については広い公園の新設などを掲げてはどうか。
4. 「財政と事業効果」について、「沼津駅周辺が市民にとって利用しやすく暮らしやすくなること」は共通の思いである。「それを実現するために何に費用を使うか、どのようにすると効果がでるのか」については、状況を明らかにしながら検討を進められるとよい。
5. 「広域の拠点」「広域アクセス」については、沼津駅周辺に全ての機能を集中するのではなく、周辺市町、特に三島との住み分けが必要ではないかと。

上記の点を話し合う中で、以下のような意見を共有しました。

「移動する」「住む」ことがまちの「賑わい」につながることにについては、「市民がもっと駅周辺地区やその周辺に住める環境をつくり、中心部に歩いていけるようにする」「子どもたちが過しやすいまちであれば、家族で行ける。家族で行けば、そこで遊んだり、食べたりとする。それが賑わいになる。」との意見を頂きました。

「自転車での移動」については、「利用しやすい環境をつくる（ハード整備）と同時に、利用のルールづくり、マナーの向上（ソフト施策）もあわせて進めることが大切」「自転車を利用しやすい環境をつくる中で、駅の役割として、通勤、通学はもちろん駅利用者が気軽に使えるような駐輪環境を駅前や駅に整える必要がある」「自転車と同様に、バイクの駐輪環境も駅前や駅に必要である」との意見を頂きました。

「広域的な拠点」については、「周辺の市町との役割分担を考える中で、とくに三島とは、相互補完できるような施策が必要である。」との意見を頂きました。

「広域連携」「広域からのアクセス」については、「沼津と三島との連携を生かすには、まず、そこをつなぐ道路整備が急務である。電車ではすぐだが、車で行くと非常に時間がかかるのが現状である」との意見を頂きました。

「財政と事業効果」については、「高架化よりも実際に動いている区画整理事業に期待している」「高架化事業と区画整理事業が総合整備事業として一体で動いているが、選択肢として、切り離して考えることも検討できたらよいのではないかと」との意見を頂きました。

以上、第2回は、「交通」「防災」「広域」を中心に、地域づくりの目標を確認しながら話し合いました。

※グループ討議の概要について

この資料は、グループ討議の振り返りのために、暫定的に議論の概要を整理したものです。ファシリテーターが受け取った内容を議論の概要として記述したもので、個別の意見を示したものではありませんことをご了承ください。修正が必要な点があれば、グループ討議の中で確認して下さい。

沼津高架PIプロジェクト 勉強会（沼津駅周辺地区）第2回

グループ検討の概要【Bグループ】

Bグループでは広域レベルの地域づくりの目標と進め方に関する課題の整理についての意見を出し合った後、残った時間で沼津駅前のエリアについて自由に意見交換をしました。

広域レベルの地域づくりの目標では『拠点』への意見が多く、「箱根や伊豆までを含めた、昔からの文化圏、経済圏に基づいて広域を捉える」「県東部と伊豆地域を一体的に捉え、全体のランドデザインを考える視点が必要だ」といった、静岡県東部よりももっと広い範囲で広域を捉えるという意見が出されました。一方で、「実際に物事を動かしていくためには漠然とした絵を描いているだけではなく、1店舗、1企業のレベルから何をすべきかを考えることも重要」という考え方も出されています。

また、歴史的、地勢的、文化的にポテンシャルはあるのだがそれを磨いてこなかったために、沼津市は既に拠点性を失ってしまっているのだから、「事実を受けとめた上で拠点性をもう一度取り戻すことを考え」、「三島や富士と同じようなことをするのではなく、他にない開発をするという視点」が必要だという意見が多く出されています。「周辺市町との役割分担の中で沼津はどうあるべきかが見える」と考えると、地域との連携においては「市町村の枠を超えて施設投資などを行うのが良い」という意見もありました。

『交流』では、「新東名のサービスエリアと地域との関係を密にして、周辺の町との交流や経済の活性化を図る視点が必要」という意見があるのと同時に、「サービスエリアの活況は一時的なもの。それだけに頼るのではなく市内に交通の要衝を点在させて作る」ことが大切だという意見が出ています。また、本来はサービスエリアと同時にスマートインターチェンジ化を図るべきだったにも関わらずタイミングを逃してしまったことに触れ、「タイミングの重要性を意識すべき」という発言もありました。また、「公共交通政策、道路を道路網として考えて整備するという戦略的な視点に欠けている」ことが指摘されています。

『戦略』では、「鉄道の線路がベルリンの壁の様に南北を隔てているのが最も大きな問題であり、南北の歩行者交通の確保のために、すぐに効果のある対策を考える必要がある」「既存の跨線橋を南北自由通路とするのは、抜本的な対策にならなくても、きっかけにはなるのでは」という意見がありました。「市民と民間と行政が協力する際の行政とは市だけではなく、県が調整役として積極的に介入する」必要性も指摘されています。

『財政と事業効果』については、文化施設への予算が削られている現状等に触れ、「既に市の財政には無理が生じているように感じられるので細かいところまで予算が行き渡るようにしてほしい」という意見や、「投資の必要性や費用対効果だけでなく、誰が投資すべきか、民間なのか行政が税金を使ってやるべきことなのかを見極めることも大切だ」という意見がありました。

『進め方に関する課題』では、「市の参加が必要ではないか」「勉強会での議論が反映されるためにはJRにも参加してもらい考えを聞きたい」との意見が重ねて出されています。「異なる意見を持つ人が互いの意見を言い合うことで方向性が見えてくるのでこういう場は重要だ」と勉強会を評価すると共に、この様な機会をもっと広く市民に広げるためには、「一方的に情報発信するだけでなく、双方向のコミュニケーションツールとしてSNSなどを活用するのが良い」という提案がありました。

※グループ討議の概要について

この資料は、グループ討議の振り返りのために、暫定的に議論の概要を整理したものです。ファシリテーターが受け取った内容を議論の概要として記述したもので、個別の意見を示したものではありませんことをご了承ください。修正が必要な点があれば、グループ討議の中で確認して下さい。

沼津高架P I プロジェクト 勉強会（沼津駅周辺地区）第2回

グループ検討の概要【Cグループ】

第2回目は、前回の議論の振り返りとして「人が集まりたくなる、歩きたくなるような魅力的なまちづくりが大事」ということが確認されました。

沼津駅周辺地区の「交通」については、歩いて楽しいまちなかにするために歩行者優先でにぎわいを生むような道づくり、バリアフリー化、自転車道の確保があげられました。また、南北交通の渋滞の早期解決や車いすでも安全に通行できること、バスの利用が減少していることが課題としてあげられました。

「防災」については、特に駅の北側が津波対策の意識が薄く、南北一体的な取り組みの必要性が指摘されました。

広域的な視点からは、「拠点」「交流」にかかわる目標については、「沼津はすでに交通の結節点でなく商業も郊外型に移っているので、発想の転換が必要では。目指すならば、行政や文化の拠点を」「豊かな自然と都市機能が融合する魅力あるまちをつくり、文化、教育で人を集めるのがよい」「文化やスポーツ施設、特色ある公園、エンターテインメントの発信などを進めたい」「観光的には、三島と一体的な拠点として、伊豆、箱根との連携を」などの提案がありました。

「戦略」については、まず、「まちづくりの方向をひとつに絞り込むことが重要で、その上で、客観的な視点でかつ迅速な判断をしてほしい」ということが確認されました。さらに、「高架化ありきでなく、どうしたら早期に活性化の効果がでるのか、南北分断が解消されるのかという視点で考えるべき」「15年もまちが工事中であることはデメリットが大きいのでは」という意見や、「今の事業計画を活かしてより効果の上がることを考え、沼津への民間投資を引き出す視点を持ちたい」という提案がありました。

「財政と事業効果」については、「市の財政見通しは右肩上がりの予測に基づいているが、甘いのではないか」「実際は耐震面を考慮すると事業費はもっと膨らむのではないか」など懸念や疑問が多く出されました。それに対し、「失敗することばかり考えないで、投資を上回る効果をあげるといふ発想も大事ではないか。間接投資も含めて、大きな効果を生む可能性のある事業にすべき」という意見や、今後のステップでの検討事項として、「それぞれの代替案を選択した場合のコストや手続的なリスク、国からの補助金額の違いなどを比較したい」といった意見が出されました。

以上のように沼津駅周辺地区や広域的な視点から地域づくりの目標を議論した後、沼津駅前に求められる役割についても意見交換をしました。「これまでは大型商業施設が求められたが、今はそれでは人集めできないと思う」「文化、スポーツ施設、医療施設で人を集めて、回遊するような魅力をつくり、そこに商業もあるといい」「駅前に、緑の公園やイベントのできる広場があり、いろいろな企画で盛り上げれば、買い物客も、観光客もよろこぶ。そのようなソフトを育むハードの整備が重要だ」「駅を利用する学生や高齢者、観光客などをターゲットに考えて使いやすい駅、魅力的な駅に。バスなどを利用しやすくし、駅の利用を高める施策も必要では」「商店街の活性化については、これから高齢化などでますます車で来る人が増えると思われるので無料駐車場があるなど、駅にアクセスしやすくできる」といった意見が出されました。